

第10回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

1 会議

期日：令和7年11月28日（金）16:00～17:20

場所：射水市役所会議室301

出席者：

- (委員) 金谷会長（教育長）、京角副会長、六渡委員、加藤委員、
杉高委員、金委員、中澤委員、岡山委員、漁委員、櫻井委員、
原委員、浦島委員
- (事務局) 作道教育委員会事務局長
星野事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長
小谷内事務局次長
佐藤学校教育課長
川渕課長補佐、中林副主幹、道上主査、稻田主査（学校教育課）
明神係長、青木主任、小林スポーツ推進コーディネーター
(生涯学習・スポーツ課)
宮本専務理事、京角事務局長、小田主事
((公財) 射水市スポーツ協会)

2 概要

- ・開会の挨拶（金谷教育長）
- ・議事進行（金谷会長）
- ・報告事項

（1）学校部活動の地域展開の現状について

【委員からの意見】

(委員)

学校部活動の参加生徒数が少ないことや学校部活動と地域クラブ活動の参加生徒数に差があることに関してどのように捉えているか。

(事務局)

競技ごとに参加人数に差があることに関しては、平日の時間は部活動を行い、休日に関しては地域クラブとしてではなく、一般のクラブで活動を行っている生徒が多数いることが理由だと考えられる。また、地域展開の活動場所の関係で参加できない生徒やそもそも休日の地域クラブに参加しない生徒が一定数いることも理由として挙げられる。

(委員)

学校部活動の参加生徒数が少ないことに関しては、現在、中学校の部活動は参加義務がない状態であり、既存のクラブチームに参加する生

徒も多数いることが理由として挙げられる。また、休日の地域クラブの参加数が少ないことに関しては、部活動に入っているが休日は別の競技や習い事を希望する生徒もいることなどが要因として挙げられる。

・協議事項

(1) 地域展開実現に向けた事業実施計画について

- ・平日も含めた学校部活動の段階的な地域クラブ活動への移行

【委員からの意見】

(金谷会長)

地域展開は、今まで学校で行っていた部活動をそのまま地域の人が担うようになるというだけのものではない。部活動が今後減少していく中で一つの学校では部活動を維持できなくなる状況となり、子どもたちの活動場所がなくなることとなる。子どもたちが学校部活動の概念にとらわれることなく、子どもたちのニーズに合わせた活動に対応できる環境を地域で整え、活動の幅を減少させることができるようにしなくてはならない。射水市の地域展開は、様々な人が関わり、地域で子どもたちの活動を支え、活動の可能性や選択肢を増やしていくものにしたい。

(委員)

射水市教育委員会が定める地域展開の目指す姿に近づくためには賛同する指導者や団体が必要である。地域展開における運営費用の補助などがあれば、そのような指導者や団体を増やすことにつながるのではないか。

文部科学省が定めるガイドラインを公開し、最終的な地域展開の形を提示することで、地域展開に関わる関係団体が活動しやすくなるのではないか。そのような方針等の公開は予定はあるか。

指導者や保護者には早急に周知し、理解していただく必要がある。

(事務局)

文部科学省の新たなガイドラインは12月上旬には公開される予定である。

運営費用等の補助については、ロードマップで令和10年に向けてそのような環境を整備していくため、市としてどのような制度、体制を設計していくのかについては決まった部分に関して随時周知していく。

保護者へも地域展開の情報を随時公開していく、将来の子どものスポーツ文化芸術活動に関する不安を解消していく必要がある。

(委員)

ロードマップを様々な立場の人が明確に確認できることは大事なことである。一方でロードマップに沿った形で実施していくためには課題が多くあると考えられ、子どもの活動時間、活動場所、指導者の確保などの課題を1つずつ解決しなければロードマップのようには進まないと考えられる。

指導者確保が最優先であり、学校部活動の時間に指導できる指導者が必要になってくるため、難しい課題だと考えられる。

令和7年度までの休日の地域展開に関しては実際のところ教員で引き受けなければならないという状況となっているクラブがあるため、そのような教員の負担を減らすためにも指導者の確保が重要である。

(委員)

総合型地域スポーツクラブでは現在、地域クラブの団体に場所を提供しているだけで地域クラブ活動を担っているという状況ではない。

総合型地域スポーツクラブは中学校部活動との繋がりや連携があまりないので、中学校部活動の現状を知ることで何かできることができてくるのではないかと考えられる。そのようなコミュニケーションのためにも学校部活動と総合型地域スポーツクラブを繋ぐコーディネーターのような組織の存在が必要なのではないか。

(事務局)

現在、学校教育課で地域展開に関する事務作業を行っているが、外部で地域クラブの運営を担っていただける団体があればと考えている。学校と地域クラブの連携を図れるような組織を今後作っていく必要がある。

(委員)

地域展開のマネジメントやコーディネートできる人材が不足していると考えられる。専門的な知識を活用していく必要がある。

(委員)

全国大会は今後どのようにしていくのか。

(委員)

全国中学校体育連盟主催の大会は段階的に縮小あるいは削減が予想される。いつ大会を廃止するかなどの明確な指標はないが、廃止される大会に関しては主催を各競技協会に変更し、開催することが考えられる。

(委員)

今後の見通しが分からない状況では子どもも保護者も不安である。子ども達のやりがいにも関わる問題なので大会開催の方針等についてはもっとオープンに公開していくべきである。

(委員)

指導者の確保のために人材を探す必要がある。しかし、指導をしたい人は技術指導をしたいのであって、活動に必要な場所の確保や様々な手配などをしたいわけではない。技術指導以外の部分の負担が指導者が増えない原因だと考えられるため、技術指導以外の部分を保護者等でサポートする仕組みを作り、指導者が技術指導に専念できる環境を作る必要がある。

(委員)

地域展開に関して、保護者は実体験がないため理解できていない。また、活動場所の確保に不安がある。学校体育館は卒業式などの学校行事のため使えないこともあるので、一般施設の利用も視野に入れた活動場所の確保が課題である。小学生の時期から保護者に地域展開について説明し、不安なく子どもを進学させられる環境を作ることが必要。来年度中学生になる子どもの保護者に対して地域展開の説明などは行っているのか。

(事務局)

例年2月頃に行われる入学生説明会の際に地域展開に関する説明を行っている。保護者も混乱している現状があるため、周知の方法を模索していく。

(委員)

地域展開の内容を保護者が知らない現状がある。クラブチームで活動する場合なども含めて地域展開には保護者の協力が必要である。保護者の協力を得るためにも地域展開の周知が課題である。

(委員)

小学校の教員も地域展開について理解していない現状があるため、保護者から質問されても回答できない場合がある。教員に対しても説明する機会が必要。平日も地域展開する場合、活動時間が夜になる場合もあるため、睡眠時間等の子どもの健康に対して不安が出てくる。活動の際に起きたトラブル等の問題については、地域の指導者が対応することになるので、活動内において生徒指導的要素も出てくる。そのよう

な不安などもあるため、不安解消のためにも地域展開に関わる人達に説明する機会が必要。

(委員)

教員の中には平日の地域展開に関して指導者として携わる者も出てくると思うが、学校の業務も行いながら平日の地域展開の指導者として活動する状況が負担になるのではないか。中学校の教員も平日の地域展開について不安に思っている部分もある。